

第18号
(平成30年7月)



あいいく

～愛を育み 地域と
ともに子育て支援～

発行者
社会福祉法人
半田同胞園
理事長
北村 正信

<住所> 〒475-0846 愛知県半田市栄町2丁目22番地

HP <http://dohoen.jp/>

本部・母子生活支援施設 Tel. 0569-21-0645 Fax 0569-31-0645
保育所 Tel. 0569-24-6645 Fax 0569-24-6654



◎「平成29年度を振り返って」・「保育所分園及び地域交流スペースの建設計画について」

理事長 北村 正信



日頃は社会福祉法人半田同胞園にご厚意と変わらぬご支援を賜り心より感謝申し上げます。

理事長としての2年目の昨年は、今更申し上げるまでもないのですが、半田同胞園が行政はもとより、地域、団体、個人と本当に多くの方々にご支援を頂いていることを感じる年となりました。公の施策のほか多くの金品のご寄付、また母子生活支援施設、保育所の諸行事においてのボランティア等、ここではとても紹介しきれぬものではありません。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

さて、半田同胞園保育所は、定員261名の市内で一番大きな保育園であります。少子化の時代を迎える中、昨今の幼児に対する保護者のニーズの多様化と乳児期からの保育支援の要望の高まりもあり、幼児人数は横ばいか、やや減少、乳児人数は定員ほぼ満員で当保育所を希望されても入園できず待機される方もいる傾向にあります。また母子生活支援施設では、継続的に高い入所利用率の中、利用世帯の児童数も多く、その学習や生活等の利用者支援にとどまらず、昨今で



(仮称)半田同胞園保育所分園等新築工事完成図

は地域に自立した母子世帯等の福祉ニーズに応えることも求められています。そこで待機児童の解消、地域福祉ニーズへの取組みとして当法人では(仮称)半田同胞園分園(以下「分園」という。)を来春の開園予定で計画しています。

分園は、本園の西100メートルの現在職員駐車場として利用している土地に、木造平屋建、約215平方メートルで建設し、0歳児定員18名(現在は本園にて0歳児定員15名)とした保育室と、地域に開放できる地域交流スペースで構成します。地域交流スペースでは、地域での生活困窮世帯等への学習支援や子どもの食の支援、現在園で開催している高齢者向けのサロン等、より地域に根ざした福祉サービスの拠点となることを目指しています。また分園の開園後は本園の1歳児定員は10名増の40名、2歳児定員は6名増の42名、保育所全体では19名増の定員280名となり、低年齢児の受け入れをさらに充実させる予定です。

来春、分園の園庭でひなたぼっこをする乳児達を地域の高齢者が温かい眼差しで眺めている、そんな地域に愛され暖かみのある保育園にしたいと思っております。そして、こういった当法人の活動が、

日頃より御支援を頂いている方々へのお礼であり、法人の責務であると考えます。まだまだ、開園までには解決しなければならぬ課題は多くありますが、関係各位の皆様には今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

◎ 当法人理事の紹介及び一言
「大好きな半田同胞園」

理事 手島 寿宏



半田同胞園と私との関わりは55年前の4月に保育所に入園をしてからになります。

当時の我が家は、父の手伝いで母も仕事に出ている、行きは母に送られ、帰りは親戚のおばあさんに迎えにきて頂いていました。幼少期の頃は御多分に洩れず、母から離れるのがイヤで嫌でしょうがなく、泣きながら通いました。年長になりますと、行きも帰りもおばあさんになり、弟の手を引き3人で通ったことを思い出します。半田同胞園保育所には4年間通わせて頂きました。小学校に入学した後も、昔の児童館(当法人運営)でオルガンを習い、4年生では、そろばん教室にも通わせて頂きました。私は4人兄妹ですが、全員4年間お世話になりました。その後、私にも4人の子どもができましたが、大好きな半田同胞園保育所で全員御世話になり感謝しています。

数年前、私の家族の幼少期全てに関わって頂いた半田同胞園から理事のお誘いがあり、御恩返しのためにお役目を務めさせて頂いています。最近では、法律も変わり半田同胞園も時代に合わせなければなりません。根本の「大切なお子様をお預かりして、大切に育てる」。このことを忘れず見守って参りたいと存じます。



半田同胞園保育所(保育所)

定員 職員

261名
所長1名・保育士37名
延長保育士23名・調理員5名
看護師1名・事務員1名
※平成30年4月1日現在

◎平成29年度「重点努力目標」の取組の成果と今後の課題について

保育所長 青木 誠



平成29年度の重点努力目標は、昨年度に引き続いて6項目を挙げて継続して実践することになりましたが、ややマンネリ化の傾向が見られる項目もありましたので、数名の代表による検討を重ね、より具体的に子どもたちが興味をもち、意欲的に取り組むことのできる内容に変更しました。

また、重点努力目標だけでなく、「食育」の研修にも積極的に取り組む、年度途中ではありましたが、食育を専門に研究している皇學館大学の駒田教授を招いて職員対象の現職教育を行いました。今後も継続して指導を仰いでいきたいと考えています。

さらに、平成30年度から新保育所保育指針が実施されます。県内外で行われる研修会等に職員を積極的に参加させて研修を深め、本格実施に備えていきます。

○保護者の協力のもと、「早起き・早寝・朝ごはん」の生活リズムを整えていく。

これまで実施してきた「生活チェック表」を見直し、「キラキラ週間」と題して毎月1週間を実施期間と決めて行いました。チェック項目も5点に絞り、保護者に負担のかからないように配慮したこともあり、親子で楽しんで取り組む姿が見られました。また、がんばった褒美にキラキラシールがもらえることとあつて、子どもたちが意欲的に生活のチェックができました。

○「柳沢運動プログラム」「さくらさくらんぼリズム」を各年齢の発達段階に合わせて遊びの中に取り入れ、運動能力の発達をうながす。

0歳児から5歳児まで系統的に保育の中に取り入れて実践を継続していきます。

・子どもの体力向上を図る上で重要な取組であるとの観点から一年間を通して子どもたちが楽しく運動できる工夫をして実施しています。

○子どもからも保護者からも信頼される保育士になる。

・以前実施した「保育所評価」で達成度のやや低い項目でしたが、職員の不断の努力で保護者からの評価はよくなっています。保護者との良好な信頼関係を築いていけるよう今後も継続して実践していきます。

○園内・園外研修に積極的に参加し、保育の質の向上を図る。

・市内で実施される研究会や研修会に可能な限り参加させて保育士の力量向上に努めました。

・年度途中からキャリアアップ研修が開催され、多くの職員が受講しました。保育士の資質向上のために積極的な参加をさせていきたいと考えています。

・県外研修への参加は全職員を対象に派遣するようにしています。全国から集う保育士と交流することで刺激を受け、自分自身の保育を振り返るよい機会にとらえ、今後も継続していきます。

○元氣よくあいさつのできる子どもの育成を図る。

・あいさつ溢れる保育所をめざして、まず職員から率先して実践することが重要であると考えて子ども、保護者、来客等への積極的なあいさつをするように心がけていきます。

☆防災教育のさらなる充実

・現職消防士の指導で進めてきた防災教育は3年目を迎え、年々、パワーアップした内容となっています。訓練のための訓練ではなく、より具体的な対応が要求される訓練内容に、毎回緊張感をもって参加することができました。



子どもたちが、お米の収穫をしました。



夏の暑い日、みんなで外でかき氷を食べてました。



稲を育てたお米「べっちゃん」！自分で育てたお米「べっちゃん」おいしかった！

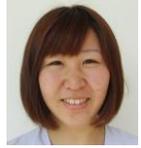
◎平成30年度に新しい仲間となった職員を紹介



保育士 高松 久美

同胞園の子どもたち、そして職員の方々と一緒に過ごす中で保育士として仕事ができる喜びを実感しています。子どもにとって、安心できる存在になれるよう子どもへの気持ちに寄り添い、保育していきたいと思っています。職員間でも、それぞれの良さを認め合い、子どもの姿を真ん中にしてください。子どもながら進んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。





栄養士 高木 絢菜

今年度から栄養士として献立を少しずつ立たせてもらうことになりました。「食」は子どもの身体を作る上でとても重要なことなので、たくさん食べることで、バランスのとれた献立を立てていきたいと思ひます。給食の時間が毎日楽しみになるようにしていきたいように、子どもたちがどんなものが好きかなど、コミュニケーションをとって頑張っていきたいと思ひます。



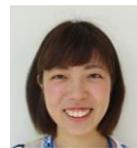
保育士 石島 萌那

今年度から保育士として同胞園で働くことになり、2歳児りす組の担任をさせていただくことになりました。初めての経験だらけで勉強の毎日ですが、園長先生をはじめ、たくさんの方の先生方の良いところをたくさん吸収し、「先生に任せて大丈夫」と思っていたように頑張っていき、毎日子どもたちと笑顔で過ごしていきたいと思ひます。



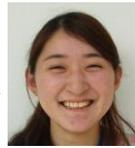
保育士 大岩 咲葵

今年度より保育士としてお世話になることになりました。まだまだ未熟ですが、子ども一人ひとりの思いに目と耳を傾けることで知り、大切にしていきたいです。そして、子どもとともに楽しみながら、私自身も多くのことを学び成長していきたいと思ひます。「明日も保育所に来たい！」と



保育士 加藤 志生

思えるよう、子どもに負けなくらい元気いっぱい笑顔で頑張ります。趣味は旅行と舞台観劇で、休日は様々な場へ出かけています。私自身二歳児の頃より同胞園に園児として通っていました。幼い頃から大好きだった同胞園に保育士となり戻って来られたことを嬉しく思ひます。人一倍、同胞園と子どもたちに愛情をもって貢献したいです。



保育士 神谷 桃佳

今年度から半田同胞園保育所でお世話になり、一時保育はんだ組担任をさせていただくことになりました。私は、一番大人を必要としている時期の子どもに携わることが出来る保育職に誇りと責任をもってこれから頑張っていきます。まだまだ未熟ですが、先輩の姿を見て学んだり、時にはご指導していただいたりしながら成長していきたいです。よろしくお願ひします。



保育士 新美 奈月

四月からこちらで働かせていただくことになりました。一歳児あひる組担任をしています。一年目でまだまだ至らない点が多いと思ひますが、素敵な先生方から保育を



保育士 早坂 颯姫

学び、精一杯頑張りたいと思ひます。私は体を動かすことが得意で、現在もソフトボールをやっています。自分の得意なことを生かし、子どもたちと元気に過ごしたいと思ひます。よろしくお願ひします。一緒に保育所一年生です。中学の頃、陸上部に所属していたため体力には自信があります。私のチャームポイントは笑顔です。この笑顔でたくさんの子もたちが笑顔になれるよう頑張りたいと思ひます。初めてのことでご迷惑をかけることもあるかと思ひます。よろしくお願ひします。



保育士 水本 真由奈

今年度から、二歳児うさぎ組の担任をさせていただくことになりました。毎日元気に子どもたちと遊び、自分自身も一緒に楽しみたいと思ひます。そして、子どもたちが安全に過ごせて、毎日同胞園に行きたいと思ひます。感謝の気持ちと笑顔忘れず、子どもと一緒に成長していきたいらなと思ひます。よろしくお願ひします。



保育士 石川 由華

今年度から同胞園保育所で働かせていただくことになりました。私は高校卒業して2年、保育とは関係のない仕事をしていました。でも小さい頃からの「保育士になりたい」という夢を捨てきれず、仕事を辞めて専門学校へ通うことを決めました。同胞園で働き始め、試行錯誤する日々ですが、毎日とても充実しています。保育士になるという夢を諦めなくてよかったです。



保育士 花原 恭子

今年度を迎え、四月から同胞園保育所で新たな気持ちでスタートしました。戸外でのびのびと元気がいっぱい体を動かす子どもたちと「楽しい！」を共感しながら保育を楽しんでいます。子どもに寄り添いながら、何が本当に大切で必要なかを考えながら、子どもと一緒に成長していきたいです。私生活でも四児の母です。一生懸命頑張ります。



保育士 肥田 美咲

今年度から同胞園で働かせていただいています。フリー保育士として各クラスに入り、保育の補助を行っています。一回クラス入ると子どもたちが私の名前を覚えてくれて、園で見かけると大きな声で呼んでくれるのがすごく嬉しいです。新人で分か



らないことばかりで至らない点も多いと思います。すが、どうぞよろしくお願いいたします。

◎ 大空会(保護者会)の活動の様子
「一年間を振り返って」

平成29年度会長 片岩和仁



半田同胞園保育所にお世話になり始めて5年の月日が流れたころ、園長先生、前会長から会長のご依頼を

いただきました。正直、自営ではない私がいっぱいでした。『保育園にお世話になつて恩返し』と『子どもたちのために何かしてあげたい』という気持ちがあり、会長としてスタートさせていただきました。「すべては子どもたちのために」をスローガンに掲げ、子どもたちの笑顔が溢れる催し物を企画できるよう、副会長、書記、会計の役員の方々と力を合わせ、夏祭り、運動会、園展を中心に企画・運営しました。その結果、今までにやったことのない新しい取り組みをたくさんすることができ、すべてのイベントに多くの方々に「来場いただく」ことができました。これは大空会の活動にご理解・ご協力・ご支援をいただきました企業様やボランティアの方々のお力添えあつたの結果です。本当に「ありがたい」と感じました。半田同胞園保育所で体験したことを子どもたちが、これからの人生に活かしていただくことを切に願っております。また、半田同胞園保育所

とともに大空会がますます繁栄することをご祈念申し上げます、お礼の挨拶とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

「乳児用ロッカー2台のご寄付」

平成29年度大空

会様より、園児のために乳児用ロッカー2台を購入して頂き、ありがとうございます。大きくなって使いやすいです。



◎ 半田同胞園保育所内での特別保育事業実績

- ・ 延長保育事業 月平均2,212人 (日平均 早朝33人、延長91人)
- ・ 一時保育事業 年間延1,463人
- ・ 園庭開放(毎週月曜日) 363組816人
- ・ 子育てサロン(毎月2・3・4の月曜日) 子育ての民生・児童委員さんのボランティアによるびよんびよん村、ふれあい広場(同胞園ホール) 199組380人

子育て支援事業(半田市委託)
〈半田市市民交流センターでの実施〉

平成18年度から、子育て支援センター内で、乳幼児一時預かり事業及び親子で遊ぶプレイランドの実施。12年目の委託。

◎ 子育て支援事業

母の出産や仕事復帰などのため、祖父母と一緒に利用も多く、プレイランド

に来る親子が多く、少子化という事を忘れてしまう程です。また、時期問わず入園についての相談が多い事を考えると「待機児童問題」は、深刻だという事を実感します。

子育ての相談は、排泄(トイレトレーニング)については、以前は6月が多かったですが、最近が入園前の1月頃〜3月頃も多くなってきたように思います。「みんなで遊ぼう」の行事では、色々な経験の提供を心がけており、いつも喜んでもらっています。



みんなで遊ぼう「おたのしみ会」の様子



みんなで遊ぼう「もちつきごっこ」の様子

◎ 幼児一時預かり事業

一時預かりを利用する理由としては、保育園への入園待機で、保育園の一時保育と「はんだっこ」の一時預かりを併用している方、幼稚園の春・夏・冬休みに利用する方、母や兄弟の習いごとで利用される方と本当に理由は様々です。また、市内の方だけではなく、市外や県外の方の利用もあります。

プレイランドを利用して保育士とも慣れている為、子どもも親も安心して預けてくれる様子です。

◎ 子育て支援事業及び乳幼児一時預かり事業の実績状況

- ・ プレイランド利用者数
- ・ レットトライ1・2・3利用者数
- ・ リズムで遊ぼう利用者数
- ・ みんなで遊ぼう利用者数
- ・ 相談件数
- ・ 乳幼児一時預かり利用者数 (左表に各月の利用者数を掲載してあります)

区分(単位)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレイランド利用者数(人)	3,458	3,596	4,329	4,741	4,473	4,162	4,447	3,630	2,961	3,197	3,245	4,015	46,254
レットトライ1・2・3参加者数(組/人)	50 114	22 45	43 90	36 76	38 88	28 58	38 78	35 75	30 64	16 31	17 37	22 47	375 803
リズムで遊ぼう参加者数(組/人)	36 73	44 93	49 104	47 101	49 111	40 88	38 90	56 117	30 67	25 53	25 59	34 78	473 1,034
みんなで遊ぼう参加者数(組/人)	23 49	70 142	26 59	74 152	69 160	35 79	44 95	38 83	70 146	43 91	43 90	55 123	590 1,269
相談件数(件)	28	38	45	24	22	17	24	23	25	22	14	34	316
乳幼児一時預かり利用者数(人)(うち0歳)	164 13	105 10	128 12	160 20	181 18	130 10	157 8	176 17	158 23	123 6	184 22	195 18	1,861 177
(うち小学生)	3	0	0	1	3	2	2	1	0	0	0	0	12



半田同胞園(母子生活支援施設)

定員 20世帯(サテライト5世帯)
職員 施設長1名、主査1名、被虐待児個別対応職員1名、母子支援員3名、サテライト母子支援員1名、少年指導員3名、心理担当職員1名、事務員2名、特別指導員1名、母子自立支援員1名、サテライト補助員2名、嘱託医1名 計18名

※平成30年4月1日現在

◎平成29年度母子生活支援施設事業報告

施設長 鷲野林平



平成29年度の重点努力目標についての取組結果を報告します。

○全体テーマ

「社会福祉法人改革」について、職員に周知をしています。地域の中での役割・存在意義を具体的にイメージするまでには至りませんでした。しかし、平成31年度に開所予定の保育所分園内に「地域交流スペース(仮称)」を設置する予定であり、この機会に地域の中での役割・存在意義をより明確にし、具体的な事業展開がイメージできるようにしていきたいです。

第三者評価における「自己評価」については、職員全員で取り組むことがで

き、施設の「強み」の再確認をすることができました。この「強み」を今後の利用者支援に活かしていきたいです。

○利用者支援

「目標」の見直しのための「ケース会議」を世帯の入所時期を配慮した時期に行うこととし、母と子の「より身近で具体的な目標」について検討することができました。

年度当初は、入所後、問題解決ができないまま短い期間で退所するケースが少なく、利用者と職員の「満足度」という点においては十分ではありませんでした。

年度後半は、入所前の生活の環境の影響により、精神的に不安を抱えながら生活をするケースが多く、関係機関との連携を図りながら、利用者に寄り添いながらのより個別な対応が必要となりました。

○職員育成・連携

施設内研修において、厚生労働省が発行している「母子生活支援施設運営ガイドブック」を職員全員で読み込み、基本理念、支援のあり方について再度確認することができ、支援に活かしていくことができました。

今年度、新規採用した少年指導員の育成は職員全体で取り組むことができ、利用者(主に児童集団)、職員との良好な関係を構築することはできました。また、少年指導員から母子支援員に異動した職員も、他の職員(主に母子支援員)の協力を得ながら、利用者へ寄り添い、関係機関との連携を密にし、業務に

取り組むことができました。

年度末には、処遇改善もあり、職員自身の役割、職員間における位置を再認識でき、今後の業務に活かしてもらうことを期待しています。

職員連携においては、一昨年度から、職員間の引き継ぎを朝と昼に実施し、一定の効果は表れています。今後も日々変化する利用者を取り巻く環境と利用者の気持ちを職員間で共有し、適切な支援ができるようにしていく必要があります。

研修においては、職員の経験年数に合わせた研修に意識をもって積極的に参加するように取り組むことができました。

その他、昨年度同様、定期的に日本福祉大学の江口教授(臨床心理士)を招いたケース検討会を実施して、利用者理解に努めることができました。

○一時保護及び地域支援

緊急一時保護事業については、愛知県女性相談センターと委託契約を結び事業実施をしました。昨年度同様、ケースによっては、一時保護期間が長期にわたることもあり、保護期間中の「閉鎖感」を解消することができるような対応にも取り組みました。また、必要に応じて、愛知県女性相談センター経由で福祉事務所に母子の状況を伝え、できるだけ早く、次の安心して生活できる拠点探しを促しました。

子育て短期支援事業については、半田市、知多市、常滑市、東浦町と委託契約を結び事業実施をしました。実績として

は半田市と知多市の2市からの依頼があり、母子世帯、児童等の受入をすることができ、地域における施設の役割を担うことができました。

地域支援については、「生活困窮者自立支援法」の事業実施の一環として、半田市が組織する「半田市生活困窮者自立支援ネットワーク協議会」に昨年同様、職員が参画し、地域で生活する母と子が安心して過ごすことができる環境、特に、学習環境の整備等の検討をし、「負の連鎖」を断ち切るための事業実施の提案をすることができました。

また、国が推進している「地域包括ケア」の一環として、今年度から、半田市、半田市社会福祉協議会が主催する「地域包括ケアシステム推進協議会」、「介護予防・生活支援協議会」にも職員が参画し、地域の情報を収集し、地域理解を深めることができました。地域の理解、情報を得ることで、平成31年度に開所予定の保育所分園内の「地域交流スペース(仮称)」の有効活用につながっていくかと思っています。

また、地域支援事業の一環として、「ならわしいやう隊」のみなさんの運営による「同胞園ならわサロン」は定着してきており、開催日には20人ほどの地域の高齢者の方々がおいでいただき、コーヒを飲みながら、ニコニコしながらお話をしていたと思います。

○入所状況・行事等

入所状況は、月平均約18世帯、児童数は月平均約30人(乳幼児12人、学童

等18人)でした。新規入所世帯は17世帯で、入所理由のすべてが夫等からの暴力でした。退所世帯は18世帯(本施設から13世帯、サテライト施設からは5世帯)でした。退所理由は様々な問題が解決でき、日常生活・身辺・精神的な自立の見込みが立ったための割合が多のですが、中には問題の解決には至っていませんが、施設の生活に慣れずに退所するケースや子育てのよりよい環境を求めて退所するケース等がありました。

夫等の暴力からの緊急一時保護の受け入れは6世帯で昨年と同じ件数でありましたが、延べ日数は93日で、保護期間は長期化傾向でした。近隣市(半田市・知多市・常滑市・東浦町)から受託事業としての子育て短期支援事業は5件の受け入れをし、きょうだいの入院、母親の出産、体調不良等で、子育てができない場合の支援をしました。

母親の就労支援や育児支援の一環としての補充保育等は、延べ310件でした。内訳は補充保育が一番多く142件、次に未措置児保育が78件、祝日保育が69件の順となっています。

行事については、全体行事として、「親子スポーツ大会」、「野間海水浴」、「親子遠足」、「年忘れ会」、「新年会」、「節分会」、「退所者同窓会」。母親・乳幼児行事として、「カルチャースクール(書道教室、料理教室)」、季節感を大切にしながらの「七夕会」、「ひな祭り会」。児童行事として、自然にふれあうための「つり大会」、「キャンプ」等を開催、実施しました。それぞれの行事

において、母も子も楽しいひと時を過ごすことができました。

将来、施設職員、保育士を目指す大学生等の実習の受け入れは、施設として人材育成の一環でもあると考え、積極的に取り組むことができました。また、夏休み期間中には、中部善意銀行から紹介いただいた高校生のボランティア体験活動の受け入れも積極的にしました。

また、行事、イベント等にJA職員のみなさんをはじめ、日本福祉大学、名古屋短期大学の学生のみなさんのご参加、ご協力をいただき、地域のみなさんとの交流を深めることができました。また、国際交流ボランティアクラブ「ポレポレ」のみなさんの協力を得、開催している「日本語教室」も定着してきており、外国籍のお母さんが日本語のみならず、日本の文化・風習についても教えていただいております。さらに、施設へ入所する前の面接時の「しおり」の外国語版の作成もしていただきました。

最後に、地域のみなさんから衣類、書籍、食料品、お菓子等、たくさんのお寄せをいただいております。また、ボーリング、ミュージカル等への招待もいただきました。施設で生活する母と子はとても喜んでいました。本当にありがとうございます。今後もご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

◎ そば打ち体験

母子自立支援員 沢井美子

母子生活支援施設では、年2回、母



そば打ち体験「有脇菜の花クラブ」の皆さん

親を対象に教養講座を行いました。

1月に行った教養講座は半田市内の北部に位置する有脇地区で活躍されている「有脇菜の花クラブ」の方々の

ご協力とご指導を得て、施設内で「そば打ち体験」を行いました。母たちも初めでの体験でワクワク、そば粉のとてもいい香りにびびくりでした。

はじめに「有脇菜の花クラブ」の方の紹介、活動内容の紹介がありました。会員が有脇地区の休耕田を利用し、そばの栽培をしているそうです。そこで収穫されたそばから作られたそば粉を使ってのそば打ちです。当日は、使用する道具などをすべて用意いただき、朝早くから施設に来て準備して下さり、母たちが打つ前から試し打ちとして、その日の温度、湿度などを見て、そば粉と水の割合を確認しながら、そばを打ってくださいました。

母4人で1グループとし、その中に会の方が1名ずつ入ってくださり丁寧に指導してくださいました。そば粉に少しずつ水を加え、母たちが交代でこねてかたまりにしていくのに悪戦苦闘していると会の方がコツを教えてくださいました。「かたまり」にすることができました。「かたまり」になると今度は延ばし作業になり、麺棒を使って延ばし方を教え

ていただきました。その次は延ばした生地をたたんで切っていきます。麺を切る専用の四角い大きな包丁で板をあて、等間隔に切っていくのですが、それがまた難しく太かったり細かったりです。しかし出来上がったものは間違いなく「そば」でした。切った麺をみんなで比べあい笑いがおきました。会の方が切り終わったグループから順に茹でてくださる間、事前にクラブの方が打ち、茹でて出来上がったそばを試食し、本当においしいと母たちも感激していました。

母たちは、家族分のそばを持ち帰り、家族で食べる時に楽しい話題となったことと思います。

「有脇菜の花クラブ」の方々が施設まで来てくださり、「そば打ち」を教えてくださいただく中で母たちと会話ができたことは、他地域の方々との交流の一端となり、母子生活支援施設というところも知っていただくことができ、とても良い経験であったと思います。

ご協力ご指導いただきました「有脇菜の花クラブ」のみなさまに心から感謝いたしております。

◎ ミュージカル鑑賞

少年指導員 田浦奈々

日産労連NP0センター「ゆうらいふ21」様より、安城市民会館で行われたクリスマスチャリティー公演「嵐の中の子どもたち」へご招待を頂きました。「いつまでも思い出に残る本物の舞台を見てもらいたい」という思いから、日産労



日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」ミュージカル「風の中の子どもたち」ポスター

連組合員の方が積み立てた「福祉基金」と多くの会員の皆様のご支援で行われているもので、例年ご招待を頂いており今年度で約30回目の参加となりました。普段体験できないような大きなホールでの観劇、そして劇団四季の方の迫力のある演技や物語に子どもたちも毎年観劇を楽しみにしている行事です。

当日は日産労連組合員の方がボランティア実行委員となって駅から会場までの案内や説明を丁寧にして下さり、安心をして会場に向かうことが出来ました。

今回の演目「風の中の子どもたち」は、嵐に襲われた村で仲間と助け合いながら希望を持って生きていく子どもたちの冒険物語です。いざ鑑賞が始まると、日頃感情をあまり表に出さないおとなしい子が前のめりになって観ています。終盤の機関車が走り出す場面では、後方の席まで聞こえる音や視覚的な演出に「すごいね。」「本当に動いているみたい。」「と声をあげて驚き、目で追っていました。帰る際には出演者と握手や記念撮影をしてもらい嬉しそうなおとなしいの様子も見ることが出来ました。ミュージカルの中には日頃から職員が

子どもたちに伝えたい事が詰まっています。今回の演目の中には、仲間と協力して一つの事をやり遂げる達成感や相手を思いやる事の大切さ、また観劇後には男の子は格好よく勇敢な、女の子は心優しいキャラクターに注目した感想を聞き、子どもたちにもしっかりと伝わっているのだと感じとても有意義な時間になりました。

観劇後の感想には「歌がきれいでした。」「とあり、その子の音楽の感性にどこかに何かが響いていたのかと思います。他の児童たちも目を輝かせながら楽しんで観ていたのを今でも思い出します。子どもたちが本物のミュージカルにふれあい、楽しく歌って踊る姿がいつまでも心に残るとても貴重な経験となりました。ご招待頂き本当にありがとうございます。

◎ 新人職員紹介



少年指導員 大川真依

はじめまして。今年度から、半田同胞園に入職しました。大川真依です。よろしくお願いたします。さて、暑い夏が始まり、セミの声が聞こえる季節となりました。そのようななかでも、子どもたちはいつも元気いっぱいです。その元気を笑顔にたくさん癒されています。私も子どもに負けないくらい元気いっぱい成長して

いきたいです。

◎ クリスマス慰問に「感謝!!」です

平成29年12月15日に末日聖徒イエスキリスト教会刈谷ワードの皆様が「クリスマス慰問」に来ていただきました。この慰問は、今回で26回目となり、永きにわたるものです。この善意に対して、理事長から感謝状と記念品を贈呈し、心からの感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。毎回、たくさんのお食事と子どもたちへのプレゼントを用意していただいております。また、歌や踊りも披露していただき、母も子も楽しいひと時を過ごすことができ、お腹も笑顔も「いっぱい」です。そして、感謝も「いっぱい」です。本当にありがとうございます。



25年間慰問に対し、感謝状贈呈

bless4のダンスショー プレゼント

法人 (社会福祉法人 半田同胞園)

◎ 役員等紹介

- ※平成30年7月1日現在
- 役員(理事六名・監事二名)
- 【顧問】 水野 八洲男
- 【理事】 「理事長」北村正信
- 水野源次・穴戸洋子

評議員(七名)

- 酒井なつ江・杉浦勝子・鈴木一郎・永田創一・向井克子・高木勝弘・小坂和正 ※水野 節 6月末退任
- ◆ 定時評議員会 29年6月20日実施
- ◆ 1回評議員会 29年11月17日実施

評議員選任・解任委員(三名)

- 杉江道城・二宮公平・鷺野林平
- ◆ 選任解任委員会 29年6月28日実施

第三者委員(二名)

- 酒井宏造・澤田圭造
- ◆ 第三者委員会 29年7月28日実施

◎ 理事会の状況(年五回)

- 【第1回】平成29年6月2日
- 一、28年度法人事業報告書案 二、28年度資金収支決算書案及び事業活動計算書案 三、28年度貸借対照表案及び附属明細書・財産目録案 四、役員報酬規程の一部改正案 五、29年度定時評議員会の開催日時及び議案内容案 六、29年度法人資金収支補正予算(第1次)
- 【第2回】平成29年6月21日
- 一、理事長及び業務執行理事の選任案 二、社会福祉法人半田同胞園第1期評議員の1名解任、及び補欠選任候補者の推薦案 三、顧問の選任

案四、第三者委員の選任案

第3回 平成29年10月20日

一、法人定款の一部改正案 二、法人経理規程の一部改正案 三、法人育児・介護休業規程の一部改正案 四、29年度法人資金収支補正予算(第2次) 五、半田同胞園保育所分園等建設計画案

第4回 平成30年2月23日

一、法人管理規程(半田同胞園保育所)の改正案 二、法人給与規程の一部改正案 三、29年度法人資金収支補正予算(第3次)

第5回 平成30年3月28日

一、29年度法人資金収支補正予算(第4次) 二、平成30年度法人事業計画案 三、平成30年度一般会計資金収支予算書案 四、半田同胞園保育所分園等建設計画案

◎ 職員の採用・退職状況

(※ 非常勤採用)

退職 (平成29年度末)

保育所 保育士 大土橋由美子・新美敦子・長尾みどり・坂田香織・石井麻友・滝本麻紀・日高美保・伴優紀美看護師 ※榊原三祥子 子育て指導員 ※遠藤明美 延長保育士 ※斉藤望 ※山内茜 ※黒田順子

採用 (平成30年4月1日)

保育所(正式採用) 保育士 高松久美・大岩咲葵・加藤志生・石島萌那・水本真由奈・新美奈月・神谷桃佳・早坂颯姫 ※花原恭子 ※肥田美咲 ※石川由華 ※榊原百々花 調理員等 高木絢菜 子育て指導員 ※兼島梓

◎ 寄附

法人

坂文種報徳会様《金40万円》、株式会社ファミリ様《金56.56万円》、瀧村めぐみ様《金30万円》

母子生活支援施設

◆義援金：社会福祉法人愛知県共同募金会・報道機関7社様 ◆現金：竹内廣治様《1万円》、畔柳貴一様《5万円》

◆食料品等：加藤金吉様《大福もち100個》市野利春様《野菜多数》、丸山清孝様《米ほか》、おいしい村様《野菜多数》、澤田達宏様《米5俵》、株式会社さんわコーポレーション様《鶏肉》、ハッピーサンタ実行委員会様《お菓子セット》、名糖産業株式会社様《チョコレート36個》、杉浦秀則様《全世帯へみかん一箱》社会福祉法人中部善意銀行様《全世帯へ食料品セット》、カーブス半田青山・住吉店様《食料品・調味料ほか》、有限会社登喜宮様《全世帯に夕食63食》、太田 旭様・村上直弥様《キャベツ54個》、観音屋様《豆腐、厚揚げ、揚げ多数》、高橋直紹様《お菓子多数》

◆日用品・衣料品等：浜崎剛至様《子ども用自転車1台、ヘルメット1個》、竹内厚美様《クーパーハン、衣類ほか》、水崎洋子様《衣類ほか》、牧美代子様《衣類ほか》、田中尚美様《扇風機10台、扇風機カバー10枚》、半田幼稚園育友会様《衣類多数ほか》、有限会社カジミツ様《衣類、日用品ほか》、眞金正幸様《日用品多数》、山本ヨネ様《子ども用マスク多数》、社会福祉法人中部善意銀行様《入学祝い品》、日本ゼネラルフード株式会社様《新入学児童にランドセル2個》、山下花朱美様《衣類多数》、医療法人宏友会様《整理棚ほか》

母子生活支援施設(正式採用) 少年指導員 田浦奈々・大川真依

少年

少年

か、有田会社カシミツ様《衣類、日用品ほか》、眞金正幸様《日用品多数》、山本ヨネ様《子ども用マスク多数》、社会福祉法人中部善意銀行様《入学祝い品》、日本ゼネラルフード株式会社様《新入学児童にランドセル2個》、山下花朱美様《衣類多数》、医療法人宏友会様《整理棚ほか》

◆その他：沢田雅勝様《ボーリング招待》、半田少年少女合唱団様《第39回定期演奏会招待》、日産労働NPOセンター「ゆうらいふ21」様《第42回クリスマスチャリティー公演招待》、末日聖徒イエスキリスト教会刈谷ワード様《クリスマス慰問》

保育所

大空会様《乳児用ロッカー2つ》、尾張製煎合資会社 榊原総一郎様《麦茶1ケース相当》

◎ 「意見・ご要望の状況(29年度)」

母子生活支援施設 件数27件

◆ご意見・ご要望の対象別件数

① 利用者間 24件

② 職員 3件

保育所 件数6件

※苦情の詳細については、法人のホームページにて掲載します。

◎ 「成岩第4区 同胞園ならわサロン」

平成28年11月から始まったサロンは、今年で2年目となり、毎週火曜日、当法人の2階集会室にて開催しています。

成岩地区の一人暮らしの高齢者の集いの場として、今年度もたくさんの方が来ていただき、おしゃべりやお茶を飲んだりして楽しめる場所となりました。この活動が広がるよう、当法人も支援していきます。

29年度の状況

42日開催 延べ942人参加 (平均22.4人/日)

※うち会員参加数は371人

(半田市在住の65歳以上の人数)



サロンでのご挨拶の様子



↑高齢者サロンの様子

元保育所長 藤田 喜久儀 永眠



藤田さんは、平成30年7月8日、95歳で永眠されました。

創設者故伊藤要三氏を保育所主任保母として長年支え、伊藤氏亡き後、保育所園長を務められました(34年間勤務)。平成2年3月退職、その後 叙勲賜受。当法人理事、半田市内の読み聞かせボランティアなどで活躍。ご冥福をお祈りいたします。

平成 29 年度の法人の経営状況 (総括表)

1. 法人単位の資金収支の状況 第一号の一様式
(自)平成29年4月1日(至)平成30年3月31日

項目	金額(千円)
(1)事業活動資金収支差額	11,386
①事業活動収入	375,583
・児童福祉事業収入	102,935
・保育事業収入	267,355
・太陽光発電用土地賃借事業収入	200
・借入金利息補助金収入	27
・経常経費寄付金収入	1,622
・受取利息配当金収入	47
・その他の収入	3,397
②事業活動支出	364,197
・人件費支出	314,134
・事業費支出	31,558
・事務費支出	18,421
・支払利息支出	84
(2)施設整備等資金収支差額	▲41,002
①施設整備等収入	1,302
・施設整備等補助金収入	1,302
・施設整備等寄付金収入	0
②施設整備等支出	42,304
・設備資金借入金元金償還支出	4,656
・固定資産取得支出	37,648
(3)その他の活動資金収支差額	24,076
①その他の活動収入	79,232
・長期運営資金借入金収入	2,953
・積立資産取崩収入	76,279
②その他の活動支出	55,156
・積立資産支出	55,155
当期末資金収支差額	▲5,540
前期末支払資金残高	46,458
当期末支払資金残高	40,918

2. 法人単位の事業活動の状況 第二号の一様式
(自)平成29年4月1日(至)平成30年3月31日

項目	金額(千円)
(1)サービス活動増減差額	▲1,380
①サービス活動収益	372,230
・児童福祉事業収益	102,935
・保育事業収益	267,355
・太陽光発電用土地賃借事業収益	200
・経常経費寄付金収益	1,622
・その他の収益	118
②サービス活動費用	373,610
・人件費	313,577
・事業費	18,529
・事務費	20,067
・減価償却費	20,067
・国庫補助金等特別積立金取崩額	▲10,122
(2)サービス活動外増減差額	▲3,378
①サービス活動外収益	3,461
・借入金利息補助金収益	26
・受取利息配当金収益	48
・その他のサービス活動外収益	3,387
②サービス活動外費用	83
・支払利息	83
経常増減差額	1,998
(3)特別増減差額	▲588
①特別収益	802
・施設整備等補助金収益	1,302
・施設整備等寄付金収益	0
・その他の特別収益	▲500
②特別費用	1,390
・固定資産売却損・処分損	88
・国庫補助金等特別積立金取崩額(除去等)	0
・国庫補助金等特別積立金積立額	1,302
当期活動増減差額	1,410
前期繰越活動増減差額	114,697
当期繰越活動増減差額	116,107
その他の積立金取崩額	35,000
その他の積立金積立額	11,640
次期繰越活動増減差額	139,467

3. 法人単位の資産等の状況 第三号の一様式
平成30年3月31日現在

項目	金額(千円)
(1)資産の部	765,787
①流動資産	72,852
・現金預金	55,079
・事業未収金	8,086
・未収補助金	7,786
・前払金	1,901
②固定資産	692,935
・基本財産	554,563
・土地	32,940
・建物	521,623
・その他の固定資産	138,372
・建物	7,523
・構築物	2,677
・機械及び装置	69
・車両運搬具	1,017
・器具及び備品	7,357
・権利	12
・ソフトウェア	1,631
・退職給付引当資産	23,672
・施設・設備積立資産	68,253
・施設・設備整備積立資産	25,411
・差入保証金	750
(2)負債の部	138,146
①流動負債	50,128
・1年以内返済予定設備資金借入金	4,656
・未払費用	24,639
・預り金	219
・職員預り金	7,076
・賞与引当金	13,538
②固定負債	88,018
・設備資金借入金	58,588
・長期運営資金借入金	5,258
・長期預り金	500
・退職給付引当金	23,672
(3)純資産の部	627,641
・基本金	29,503
・国庫補助金等特別積立金	365,008
・その他の積立金	93,663
・次期繰越活動増減差額	139,467
(うち当期活動増減差額)	1,411
(2)(3)負債及び純資産の部合計	765,787

※詳しくは、社会福祉法人半田同胞園ホームページを参照ください。
<http://dohoen.jp/>